

お元気ですか

外来での待ち時間を

安心して過ごせるように

市立長浜病院の外来では、5月から各診療科前での受付番号のディスプレイ表示を、7月からスマートフォンに外来診察時間の到来を通知するアプリを稼働させました。これは、新型コロナウイルス対策の一環として、外来での待ち時間を、密にならずに、安心して過ごしていただけるように導入したものです。ディスプレイ表示では、受付番号を繰り返し画面に表示しますので、従来の声かけによる案内を聞き逃したような場合でも、随時確認することが出来ます。

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

アプリは、診察時間が近づくと「診察の時間が近づきました」「診察室前への呼出がある」と「診察室前にお越しください」と順に通知されます。待合以外の院内や病院の駐車場にいても診察の時間が近づいたことを知る事が出来ます。なお、診察の進み具合は各診療科で違うため、診察等の状況に合わせたタイミングのご案内となります。

また、アプリの予約確認機能で、次回の診察予約日時をいつでも確認でき、予約日の前日にはアプリから通知があります。



コロナ禍であっても安心して病院をご利用いただけるサービスですので、ぜひご利用ください。

【アプリの利用開始手続きについて】
医事課または総合案内に設置しているチラシ、もしくは当院ホームページ掲載のマニュアルをご覧ください。

アプリの利用にあたっては、病院が作成する個人用QRコードを読み込む必要がありますので、来院の際、待合ホール受付カウンターまでお申し付けください。

※スマートフォンをお持ちでない人向けには、予約票等に印刷されたQRコードを読み込むことで、インターネットサイト上で当日の受付番号を入力し、診察の進み具合を確認できるサービスがあります。

問 市立長浜病院
☎68・2300(代表)

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

滋賀県指定有形文化財

「総持寺大門(仁王門)」

指定日：昭和41年7月4日指定
所有者：総持寺

約80種類一千株ものぼたんが咲く宮司町の総持寺は「ぼたん寺」として有名ですが、それだけでなく、県指定文化財「大門(仁王門)」を有するお寺でもあります。同寺に伝わる『総持寺世代記』には、江戸時代の寛永12年に大門が建造されたとありますが、梁の上の彩色された彫刻や柱の端の装飾などの絵様は、桃山時代の影響を強く受けています。

大門は建造後、現在に至るまで5回の修理を行っています。平成3年(1991)年、天明2年(1782)、明治2年(1869)、明治37年(1904)は、屋根の葺き替えを主とした修理を行い、5回目の修理となる昭和43年(1968)には、建物の部材をはずした解体修理を行いました。この時、大門の屋根は葺き替えでしたが、解体修理によって建造当時はこけら葺だった

ことが判明します。また天明2年の修理に関して「総門」、「瓦替」と世代記に記述があることから、この時すでに瓦葺に変更されていたことが分かります。そのため5回目の修理で、約180年ぶりに創建当時のこけら葺の屋根がよみがえり、現在、皆さんが目にする姿となりました。

大門の左右に配されている仁王像は、世代記によると、寛永14年(1637)に仏師高野左京により造られたものです。仁王像の囲いは木製の菱型格子でしたが、仁王像の保存と大門の美観のため、縦横2本の鉄格子と銅亀甲網に変更し、下方の柵も側面に残っていた元の金剛柵ならって復しています。

境内一面に咲くぼたんだけでなく、ぜひ大門の細部の造りにも注目してみてください。



▲総持寺大門(仁王門)

問 歴史遺産課 ☎65・6510

●広報ながはまに関するご意見 (今後、特集を希望するテーマ)

年齢 歳 (男性 ・ 女性)

※担当課からの返事をご希望の場合は、氏名・ご住所・連絡先(電話・メールなど)をご記入ください。

●市政に関するご意見

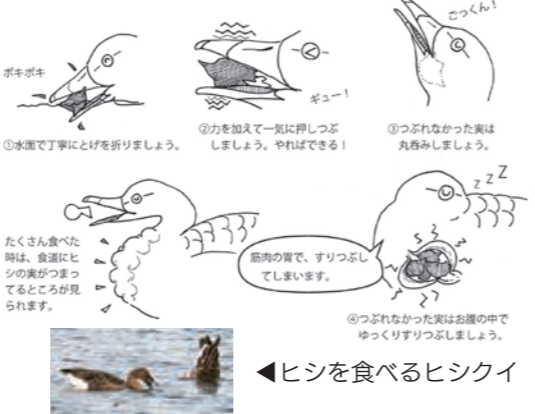
ながはまの自然 不思議発見!

エピソード 15 「ヒシクイ」

このエピソードを紹介するおもしろ動画はコチラ



◆正しいヒシの実の食べ方 ヒシクイ編



◀ヒシを食べるヒシクイ

湖岸で見かける水草「ヒシ」。かつて忍者が「まきびし」という武器にしたという危険な実を、好んで食べる野鳥を皆さんは知っていますか。今月は、ヒシの実を食べる野鳥「ヒシクイ」を紹介いたします。

ヒシクイはガンの仲間で、ロシア北東部で繁殖し、日本には越冬のために渡来します。9月末頃に第1陣が渡来し、野鳥センター周辺の琵琶湖岸を中心に、浅井地域や西浅井地域の水田、ため池で毎年300羽ほど見られます。ヒシの実や水草の根、落穂などを食べて暮らしています。特にヒシの実を好んで食べるのが名前の由来となっています。

ヒシの実には鋭利なトゲがあり、刃物では割れないほど硬い殻をもっています。ヒシクイはくちばしで丁寧にトゲを折り、強いあごでつぶして食べます。つぶすことができない場合は丸呑みし、胃の中ですりつ

ぶして食べてしまいます。トゲを折っているとはいえ、ごつごつした実を丸呑みし、よく食道や胃が破れないものだと思心させられます。

ヒシの実は、煮ると甘さ控えめの栗のような味となり、人が食べても十分美味しいです。また、栄養価も高いですが、殻が硬いため、ヒシクイ以外の生物がヒシの実を食べることはほとんどありません。

ヒシクイがヒシの実を食べる様子は、湖北野鳥センターから観察できますので、ぜひ一度見に来てください。

問 湖北野鳥センター ☎79・12009